

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
国語	① わかりやすい授業を展開する	<p>○小テストやプリントを活用し、語彙力並びに読解力を向上させる。</p> <p>○文章作成能力を涵養する ○授業での口頭発表を通じて、プレゼンテーション能力を高める</p>	<p>A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が達成できている。</p> <p>B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が達成できている。</p> <p>C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が達成できていない。</p>	B	<p>・各クラスにおいて授業始めの小テスト等は積極的に取り組めたと考えられる 読書量についてはまだまだ不十分であり改善方法を模索する必要がある</p>	松永一穂
	② 基礎学力の充実と応用力の養成	<p>○BSC検定の推進により生徒の基礎学力を底上げする</p> <p>○読書指導を充実させ、生徒の集中力をあげ視野を広めさせる</p> <p>○BSC関連課題や個別課題を通じて模試や入試に対応できる実力をつける</p>	<p>A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が達成できている。</p> <p>B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が達成できている。</p> <p>C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が達成できていない。</p>	C	<p>・BSC検定に関して「朝学」に取り組めるようなシステムを構築する必要がある 単なる「単語力」ではなく読書を通じて「文章力」を高める必要がある</p>	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(教科)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
社会	① 基礎学力を育み、学習意欲を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小テストなどを実施して生徒の理解度を把握しながら、理解度を高めるように授業を工夫する。</li> <li>○ 適切な量のホームワークを課し、家庭学習の姿勢を育む。</li> <li>○ 多彩な資料を準備しICTをフル活用して、教科への興味関心を呼び起こす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A…80%以上の生徒が目標を達成できている</li> <li>B…60%以上の生徒が目標を達成できている</li> <li>C…50%以上の生徒が目標を達成できている</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業評価アンケートの結果、教科に対する肯定的評価が中学は80%、高校は79%であり、授業への満足度は中学が87.6%、高校は87.5%であった。</li> <li>○基礎学力の定着の程度も概ね良好と判断できるが、学力上位と下位との差が大きい面がある。</li> </ul>	坂本博一
	② 大学入試に適応できる確かな学力を養成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 入試を意識させるため、模試や大学入試過去問などにチャレンジさせる。</li> <li>○ 入試を見据え、計画的に知識を蓄積させる。</li> <li>○ 大学入試に対応するために、必要に応じて課外を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A…80%以上の生徒が目標を達成できている</li> <li>B…60%以上の生徒が目標を達成できている</li> <li>C…50%以上の生徒が目標を達成できている</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高Ⅲでは推薦希望者が多く、地歴・公民での一般入試受験者は少数であったが、受験者のセンター自己採点の平均点は約6割を採っていた。</li> <li>○模試への取り組みを進めた高Ⅱの上位層は良い成績を上げているが、学年全体では全国平均を下回っている。</li> </ul>	

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
数学	① 分かる授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小テストを行って、生徒の理解度を把握する。</li> <li>○ 小テストの結果や生徒の状況により授業展開を工夫する。</li> <li>○ 生徒が主体的に取り組めるように授業を工夫する。</li> </ul>	<p>A…80%以上の生徒が授業を肯定的に評価している。</p> <p>B…60%以上の生徒が授業を肯定的に評価している。</p> <p>C…50%以上の生徒が授業を肯定的に評価している。</p>	B	<p>授業アンケートの結果、70%以上の生徒が数学の授業に満足している。</p> <p>残った課題は数学科としてグループ学習を増やして、より生徒が主体的に取り組めるようにする。また、来年度高校は全てのクラスが同じ教科書を使用するので、進学コースは授業の進め方、評価の仕方など検討する必要あり。</p>	吉村 武志
	② 基礎力・応用力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎日 Classi の Webドリルを取り組むように指導し、基礎学力の定着を図る。</li> <li>○ 放課後に補習に行い、基礎学力の向上を図る。</li> <li>○ 朝課外で、模試の過去問など難易度の高い問題を取り上げて、応用力を育成する。</li> </ul>	<p>A…80%以上の生徒が進路実現に向かって学習に取り組んでいる。</p> <p>B…60%以上の生徒が進路実現に向かって学習に取り組んでいる。</p> <p>C…50%以上の生徒が進路実現に向かって学習に取り組んでいる。</p>	B	<p>生徒の状況や模試などの結果を踏まえて、60%以上の生徒が進路実現に向けて学習に取り組んでいる。</p> <p>残った課題としては勤務時間が厳しく決められているため、自由に補習がやりにくくなった。きめ細やかな指導するためにはどのようにしたよいか検討が必要である。また、中学はフクト、高校は進研模試などの傾向をつかみ、指導に活かす。</p>	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(教科)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
理科	① 分かりやすい授業実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 板書の工夫や実施した授業内容を見直し、次の授業へ活かす。</li> <li>○ ICT教材やアクティブラーニングを授業の中に組み込む。</li> <li>○ 実験活動を通して、授業内容を深めさせる。</li> </ul>	<p>A 80%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>B 60%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。</p>	B	授業では、図や表を活用するなどICT活用や板書を通して分かりやすい授業の実践に取り組んでもらえている。その中で、授業アンケートの60%以上の生徒が満足できているという回答であった。受験生徒を抱えるクラスもあって、全体60%程度で実験指導を行っているとのことである。	扇下和幸
	② 入試体制に応じた育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒自らが問題解決力を身に付けるよう授業等を工夫する。</li> <li>○ 過去問などの演習を行って、旧入試(センター試験・二次試験)へ対応できる力を身に付けさせる。</li> <li>○ 教科会などで共通認識を深め、新入試(大学入学共通テスト)へ対応できる力を身につけさせる。</li> </ul>	<p>A 80%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>B 60%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。</p>	B	特に高Ⅲ年における授業では、全クラスで旧入試に対応できている。センター試験の過去問が豊富にあることから、多面的な視点をもって、様々な問題にチャレンジしている。その結果、およそ80%の生徒が概ね満足しているとのアンケート結果であった。これに対して、新入試に対する取り組みは万全ではない。思考力・判断力・表現力を培うためにできる取り組み方が教科全体で浸透できていない。	

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
保健 体育	① 積極的に運動に親しむ資質や能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人の授業記録により、自身の成長や能力を客観視させる</li> <li>○ iPad等のICT機器を活用した協働的な学習</li> <li>○ シラバスの整理(男女別授業、使用施設等の再検討)</li> </ul>	<p>A 80%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>B 60%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科の授業満足度は86%で生徒の積極性が伺える。</li> <li>○ ICT機器の活用は73%、協働作業は84%で、教科の特性を考慮しても評価できる。</li> <li>○ 雨天時に男子が屋外を通過して更衣する状況を改善したい。</li> </ul>	森田 裕介
	② 生徒の安全を重視した授業の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 熱中症対策(水分補給、帽子の着用等)</li> <li>○ 担任、保健室、保護者との連携</li> <li>○ 常設用具の安全管理(ゴール、防球ネット等)</li> </ul>	<p>A 80%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>B 60%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度は異常な暑さへの対策に苦しんだ。この経験を来年度にしっかり活かす。</li> <li>○ 身体的にも精神的にも病気をかかえている生徒が多い状況で、十分な連携が図れた。</li> <li>○ 予算の関係ですべてを交換はできないが、最低限度の安全管理は徹底できた。</li> </ul>	

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
音楽	① 主体的な音楽活動を通し、音楽を愛好する心情を育てる。	○基本的な音楽知識の習得。 ○主体的に歌唱・器楽をしようとする態度の育成。 ○鑑賞・ワークシートの活用	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	A.	音楽を愛好する精神は音楽にとっても影響することを理解した。また、自ら音楽を楽しみ、表現をすることの楽しさを感じる事ができた。	山根 浩志
	② 主体的な音楽活動を通し音楽活動で豊かな感性を育む。さらに専門性を高め、将来の音楽活動の礎を上げる。	○基本的な音楽知識の習得。 ○演奏活動を中心にした授業。 ○入試問題への取り組み。	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	A	生徒達自身で考え、作り上げたコンサートは、自分たちの演奏に今後どう影響するかを理解できたことは有意義な授業あった。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(教科)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
美術	① ○美術の創造活動の喜びを味わう。 (中学)	○各学年の作品制作を通じて、丁寧さと根気強さと完成する喜びを体験する。	各学年の作品が期限内に完成した作品が、 A: 9割以上の提出 B: 7割以上の提出 C: 7割未満の提出となる。	A	各学年の授業とも、熱心に取り組んでいる。授業態度についても、改善が見られ、良い雰囲気で行われた。	林武
	② ○美的体験を豊かにし、将来にわたり美術を愛好する心情を育てる。(高等学校)	○作品制作(静物デッサン・ステンシル版画・貼り絵など)を通じて、自己を見つめ、自然や美術作品に感動する。 ○美的感覚や価値観を日常生活の中で、主体的に表現できる。 ○自分の将来について進路決定できる。	アンケート等を通して、将来にわたり美術を愛好する心情を育てることが A: 目標以上の成果を上げた。 B: 目標に見合う成果を上げた。 C: 目標に見合う成果に及ばなかった。	A	美術館への鑑賞授業を行ない、本物に触れることのできる有意義な授業であった。	

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
英語	① 4技能型英語教育プログラムの遂行 (高校3年生を除く 高3の場合はこの代わりに模擬試験における成績の向上)	○カリキュラムに従った授業を行う。 具体的には以下のことを行う。 ・多読(Xreading) ・語彙(Memrise/Quizlet) ・Key sentences/Personal sentences(中学の場合) ○高3の場合は模擬試験における英語の成績の向上を目指した学習指導を行う	○語彙(Memrise) BSC半数より多くの生徒が合格=A 40%-50%合格=B それ以下=C ○Xreading 担当生徒全員が年間50冊以上=A 担当生徒全体の平均が30-50冊=B それ以下=C ○教員が定める4技能授業に関する基準で80%以上達成=A 60-79%=B それ以下=C  ○高3の場合: 模試における成績向上 明らかな向上=A どちらともいえない=B 明らかに下がった=C	B C B B	○当初の合格基準点が高すぎた。正常化後、半数以上の合格をみた。 ○英語多読の重要性を一人一人の生徒にまで浸透しきれなかった。2019年度はもっと組織的に多読に取り組む必要がある。 ○中学はよく達成しているが、高校でまだ足りていない部分がある。  ○模試は生徒により上がり下がりが様々で、一律に向上したとは言えない。	只木 徹
	② 外部英語検定試験の推進	○実用英語検定試験(英検)の合格率(2次試験までであるものは2次試験まで)を上げる ○ケンブリッジ英検の内容を理解し(オンライン研修等で学習する)ケンブリッジ英検の合格者を増やす	○検定試験合格率(基本基準) 90-100%=SS 80~90未満=S 60~90未満=A 40~60未満=B それ以下C 検定の種類、級などによって勘案 ○ケンブリッジ英検の研修実行状況 100%=A 75%以上=B それ以下C	A C	○英検については、明らかに合格率、合格者数ともに上がってきている。 ○ケンブリッジ英検については、思うような実績がでていない。	



\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
技術・家庭	① 実践的な授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的知識の定着。</li> <li>○ICT機器を活用した教材の工夫。</li> <li>○実習を通じて危機管理能力やコミュニケーション能力を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 80%以上の生徒が目標を達成できている。</li> <li>B 60%以上の生徒が目標を達成できている。</li> <li>C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入時に前回の振り返りを行うなど、反復学習を主として基礎的知識の定着を図った。結果として、ミシンの扱い方に関しては中学1年の全員の生徒が実技テストに合格した。</li> <li>○ロイロノートを活用し、授業後答えを書いたプリントを配布することで、休んだ生徒にも同等に学習できるよう工夫した</li> <li>○実習前に、役割分担を班ごとに記入させることで責任を持って取り組むことができた。けがや事故もなく取り組むことができた</li> </ul>	深名好
	② 地域に根ざした技術・家庭教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事食や郷土料理など地域特性の理解</li> <li>○梅光学院幼稚園と連携した保育実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 80%以上の生徒が目標を達成できている。</li> <li>B 60%以上の生徒が目標を達成できている。</li> <li>C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長期休暇の課題として、郷土料理や自宅のお雑煮のレシピを調べてもらい、特徴のあるものを取り上げることで、理解を深めた</li> <li>○幼児との触れ合いを通じて理解が深まった</li> </ul>	

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
情報	① 情報モラル教育の充実	<p>○ニュースなど身近な話題で情報モラルに関係したものがあれば、随時生徒に提供していく。</p> <p>○生徒同士の話し合いを通して、情報モラルについての理解を深めさせる。</p>	<p>A 80%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>B 60%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。</p>	B	<p>○ 授業の積極性が88%と、生徒の主体的な活動は十分引き出せた。</p> <p>○ グループワークが72%と、積極的な協働作業は実施できなかった。</p>	森田 裕介
	② パソコン操作のリテラシーを身につける	<p>○OfficeやMac Book、iPadを活用し、基本的なパソコン操作の知識を身につける。</p>	<p>A 80%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>B 60%以上の生徒が目標を達成できている。</p> <p>C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。</p>	B	<p>○ 発表の機会が67%と低く、38人クラスで全員が発表をする機会を設定することが出来なかった。来年度は2単位となるので改善を図る。</p>	

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

教科	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
宗教	① 聖書と福音への理解を高める。	○聖書の中心テーマであるイエス・キリスト様と福音に対する理解。 ○聖書の教えを学び、聖書の影響力ある人物について学ぶ。	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	A	○聖書の福音の中心である、イエス・キリストについて記されている内容の預言とその成就、またこれから起こる再臨について学び、福音に対する理解力が高められた。  ○クリスチャンの実際の体験したストーリーの映画を通して、聖書の教えが分かるようにさせた。	黄 惠 敬
	② 道徳の教科化に対する対応	○聖書から道徳に関するテーマを幾つか学ぶ。	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	A	○隣人を自分のように愛するテーマのアクティビティ活動を通して、聖書の教えを学び、理解力を高めさせた。 ○自分自身の隣人の対象を考え、家族から、クラスメイトなど身近な人から愛していくようにさせた。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(学年)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

学年	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
中学1年	① 基本的な生活習慣の確立	①行事を通して、団体行動の指導と実践の徹底 ②清掃活動を徹底し、美化意識を高める ③挨拶や返事など自発的に行うよう指導する	A:80%以上の生徒が目標を達成できている。 B:60%以上の生徒が目標を達成できている。 C:50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	B	各自考え、行動できた。ただ、全員ではなく1～2名は自己中心的な行動がみられた。学級として改善を図ったがうまくいっていない。(本人の意識が希薄である。)どの活動においても、出来る出来ないの個人差が広がっており、個人指導も含め、継続的な指導が必要。	俵修一
	② 学習習慣の確立と進学意識の向上	①定期試験2週間前から学習計画を立て、実践と振り返りを行う ②早い時期から大学進学を見据えてタブレット活用や進学情報誌等の情報を得るなどし、進路選択の幅を広げる	A:80%以上の生徒が目標を達成できている。 B:60%以上の生徒が目標を達成できている。 C:50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	B	定期試験だけに限らず、BSC検定やフクト学力調査に対しても目標に向かい、ほぼ全員が努力する姿をみせ、結果的に学力向上につながった。また、進学に向けての取組として、視野を広げていくことから、進級することに意欲的な生徒が増えた。今後は、個々に進路設計していくための手立てを考える必要がある。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(学年)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
中学2年	①	① 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレットでの学習・健康記録の入力をする。</li> <li>○チャイム着席の励行。</li> <li>○梅光生らしい品位ある服装や言葉遣いができる。</li> <li>○各教科の基本的学習内容の習得を図る。</li> <li>○家庭学習時間の目標を設定し、取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 80%の生徒が実行できる。</li> <li>B 60%の生徒が実行できる。</li> <li>C 40%以上の生徒が実行できない。</li> </ul>	B	<p>学習記録の入力を徹底させることで、日々の家庭学習の習慣を確認させた。生徒指導上の注意をした生徒がおり、品位ある行動や言葉遣いが十分でなかった。</p> <p>授業態度においては、各教科と協力して改善に努め、落ち着いた態度で臨むことができた。</p>	林武
	②	② 集団規律の向上と社会性の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年・クラス集団を念頭に置いた行動をし、中堅学年として模範的な行動をとることができる。</li> <li>○ものづくり体験講座や職場体験を通し、将来像を見出すとともに社会性を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 80%の生徒が概ね満足のいく行動をとることができる。</li> <li>B 60%の生徒が概ね満足のいく行動をとることができる。</li> <li>C 40%以上の生徒が存分な行動がとれない。</li> </ul>	A	<p>集団での行動は、規律正しくできた。職場体験学習では、全員が目的をもって取り組むことができ、プレゼンテーションまで充実した内容であった。</p>	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(学年)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
中学3年	①	最高学年として模範となる態度、行動の育成	①清掃徹底を指導し、校内の美化に努める。 ②挨拶の励行と梅光生としての身だしなみの指導を行う。 ③遅刻指導を強化し、遅刻をしない環境をつくる。	A:80%以上の生徒が目標を達成できている。 B:60%以上の生徒が目標を達成できている。 C:50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	A	校則をきちんと守り、遅刻も少なく、最上級生として行動できていた。課題としては、制服が変わったりしたにもかかわらずガイドブックが配付されず、校則が徹底できていない。	吉村 武志
	②	進路を見据えた学習習慣と学力の向上	①定期試験計画表をもとに、計画的に学習する習慣を身につけさせる。 ②朝学を通して学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る。 ③教科担当と連携をとり、個々の学力に対応した個別指導を行う。	A:80%以上の生徒が進路実現に向かって学習に取り組んでいる。 B:60%以上の生徒が進路実現に向かって学習に取り組んでいる。 C:50%以上の生徒が学習に前向きに取り組んでいない。	A	公立高校の入試がまだ残っているが、ほとんどの生徒が希望進路を実現させている。課題としてはフクト学力調査を1学期から実施し、早い段階から生徒の学力を把握し、指導に活かす。また、家庭学習をいかに増やすか検討する必要あり。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(学年)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
高校 I年	①	高校生としての生活習慣の確立	①遅刻・欠席を減らす指導。 ②学校行事に積極的に参加し、協力する姿勢を養う。 ③時間を守る、提出物など、責任ある行動を身につけさせる。	A80%以上の生徒が目標を達成できている。 B60%以上の生徒が目標を達成できている。 C50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	B	遅刻・欠席・提出物については家庭の協力が不可欠であり、保護者との連絡に心を配った。	林 久代
	②	家庭学習の増大と進路意識の高揚	①自学・自習に取り組ませる。 ②模試を活用し、進路決定に向けた学習計画の実行。 ③進路ガイダンスの活用。	A80%以上の生徒が進路実現に向かって学習に取り組んでいる。 B60%以上の生徒が進路実現に向かって学習に取り組んでいる。 C50%以上の生徒が学習に前向きに取り組んでいない。	A	進路指導部の新しい試みに対して能動的に取り組む姿勢を作った。自分の将来について具体的な希望や不安を持つ生徒が増え、真剣に考え始めたことを感じる。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(学年)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
高校Ⅱ年	①	家庭学習の量と質の見直し	①提出物の徹底。 ②家庭で1時間以上の自学・自習に取り組ませる。 ③模試を活用し、進路決定に向けた学習計画の実行。	A 80%以上の生徒が進路実現に向かって学習に取り組んでいる B 60%以上の生徒が進路実現に向かって学習に取り組んでいる A 50%以上の生徒が学習に前向きに取り組んでいない	B	① 提出物はいずれも期限が遵守されていた。 ② 塾の時間なども含めると、学習の量と質は向上している。 ③ まだ悩んでいる生徒もいるが、目標達成に向けて計画を立て、学習に取り組んでいる生徒が多く出てきた。	森田 裕介
	②	適性に応じた進路先を見つける	①進路ガイダンスの活用。 ②オープンスクールへの参加をすすめる。 ③タブレットを使い進路先をリサーチさせる。	A 80%以上の生徒が目標を達成できている B 60%以上の生徒が目標を達成できている C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない	A	① 進路への意識も高まり、定期考査や英検への取り組む姿勢も向上してきた。 ② 現時点で、80%以上の生徒がOSへ参加している。 ③ 進路調査や面談時にも、その場で進学先の調査ができ、非常に効果的であった。	



梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(学年)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価

学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
高校Ⅲ年	①	最終学年としての意識を高め、各自の将来をイメージし充実した学校生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年の一員としての役割を意識し、学年というチーム意識を育てる。</li> <li>○学校行事に積極的に参加し、リーダーとしての指導的役割を果たす。</li> <li>○自己の不足するところを意識し成長の手引きとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が達成できている。</li> <li>B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が達成できている。</li> <li>C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が達成できていない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭体育祭に関する生徒の取り組みは十分であった</li> <li>・クラスごとや学年としての取り組みの場面では時間の制約等もあって十分な話し合いができなかった面も見受けられる</li> </ul>	松永一穂
	②	進路を意識した個別指導により、自己実現に向け個々の能力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人面談をきめ細かく行い、的確なアドバイスをすることによって能力の向上を図る。</li> <li>○模擬試験への積極的な取り組みを促し、データの有効活用し生徒の意識の改革を促す。</li> <li>○粘りつよく反復指導を行うことにより、指導の徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が達成できている。</li> <li>B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が達成できている。</li> <li>C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が達成できていない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に絡めた面談等は各クラスとも十分実施できたと思われる</li> <li>・保護者との連絡も十分できた部分もあるが反面 保護者の意識を変えるところまで踏み込めなかった現実もある</li> <li>・模擬テスト等における意識の改革は不自由分であった</li> </ul>	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(分掌)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
分掌名		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
教務部	①	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭での学習時間、平日・週末の使い方を「タブレット」に記録し、教科別の学習時間を確認させる。</li> <li>○各教科からの課題等を通して、家庭学習の習慣化を図る。</li> </ul>	家庭学習の習慣化で、 A: 目標以上の成果を上げた。 B: 目標に見合う成果を上げた。 C: 目標に見合う成果に及ばなかった。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習の習慣についての確認ができておらず、具体的な活動も行うことができなかった。</li> <li>○運営会議等で提案し、各教科で対応を検討し、学校全体としての取り組みを確立させたい。</li> </ul>	林武
	②	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予習・復習とつなげる授業づくりを行い、予習・復習の重要性を周知させる。</li> <li>○補習授業、自主的勉強会を充実させる。</li> <li>○校内試験以外の試験に目を向け、基礎学力の定着をはかる。</li> </ul>	基礎学力の定着が、 A: 目標以上の成果を上げた。 B: 目標に見合う成果を上げた。 C: 目標に見合う成果に及ばなかった。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予習の重要性を、生徒に伝えきれていない。</li> <li>○放課後の課外授業については、進路部と相談のもと進んでいる。</li> <li>○校内試験以外では、基礎学力を図ることはできていないが、BSC検定で基礎学力については、ある程度確立できている。</li> </ul>	
	③	「わかる授業」の研究・推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学期ごとに授業公開を設定し、相互が自由に参観できるようにする。</li> <li>○保護者は、各学期とも参観可とし、2学期は、外部にも公開する。</li> <li>○塾関係者の参観も可とする。</li> <li>○教員が研修に積極的に参加できるように職員会議等で働きかける。</li> </ul>	学校評価アンケートで「授業計画や資料の準備、板書、説明等わかる授業が行われている」の「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒が、 A: 75%以上 B: 60%～75% C: 60%未満となる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業公開は予定通り実施できた。</li> <li>○保護者アンケートを見ても、肯定的な意見が多く、「分かる授業」が行われている。</li> <li>○塾関係など外部には、案内していない。</li> <li>○相互参観についても、ほとんどできていない。</li> </ul>	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(分掌)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
分掌名		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
生徒支援部	①	規範遵守の意識を確立させる	○生徒自らが規則に対する必要性と責任を持つ ○生徒会活動、学校行事に積極的に参加し規則の意味を問う	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が達成できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が達成できている。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が達成できていない。	B	・より一層生徒会活動のでこ入れをする必要がある。しかし支援部の陣容に関して、ほとんどが担任であるため時間的余裕がないのも事実。 ・生徒代表などとの会合も複数回実施できた。一層の計画的な推進にき	松永一穂
	②	自主自立意識を高める	○学校行事、クラブ活動、ボランティア活動に積極的に参加する場を作る ○教員と生徒が意見交換できる雰囲気作り ○生徒たちとの学校行事、校則等に対する話し合いの場を確立させる	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が達成できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が達成できている。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が達成できていない。	B	・生徒総会等の積極的な参加や委員会活動を意欲的に開催した。 ・まだまだ時間的な余裕のなさも有って回数的には不自由分と思われる。	
	③	教育相談等の生徒支援を確立し、実情に合わせたものにする	○多様な生徒の実態を正確に把握する ○教員間の連携を深め学校全体として共通理解を深め対処できる態勢を作る	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が達成できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が達成できている。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が達成できていない。	A	・教育相談部会としては確実に会合を持ち、協力体制を構築できた。 ・外部医療機関との連携も実際に面談の機会をもち、協力体制を深めた。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(分掌)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価						
分掌名	重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
進路指導部	① 高Ⅲ生徒の希望進路実現を支援する。	○高Ⅲ生徒が進路志望を固め、希望進路に進めるように支援する。 ○支援方法は、高Ⅲ生対象の進路相談、課外授業、集中学習会、個別指導、小論文指導、面接・プレゼン指導等による。 ○FINE SYSTEM、Compass、K-Navi等の効果的な活用を検討し、生徒保護者に適切な情報を提供する。	年度末の生徒アンケートにて A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が希望の進路を実現できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が希望の進路を実現できている。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が希望の進路を実現できている。	B	・高Ⅲに関しては生徒の希望する進路以上の大学・学部に進学させることが全体的にはできている。ただ、高Ⅲに上がった時点での目標設定が、生徒・保護者ともに低いため、高1時点からの進路指導が重要であるという課題が残った。	重村雄太
	② 生徒の進路実現のために進路検討会を定期的に実施し、全教員で生徒を支援する体制づくりをする。	○進路検討会を各学年学期に最低2回実施する(3学期は1回の年間5回) ○進路検討会の結果に基づき、担任はクラスの教科担当に注力すべき生徒やクラスの現状を伝え、成績向上のための指導を実施してもらう。 ○中学から高校までの6年間の進路指導計画を作成、または実施の協力をする。	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上を実施できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上を実施できている。 C 目標に見合う成果を50パーセント以上を実施できている。	A	・進路検討会が確実に実施できたことが今年度の大きな成果。あとは内容の吟味と、具体的な生徒への指導を徹底させることが課題。	
	③ 生徒の進路意識と学力向上のための環境整備を行う。	○生徒が主体的に進むべき進路について深く考えられるための進路ガイダンス、講演会等を実施し、生徒の進路意識向上を実現する。 ○年間の進路ガイダンス、講演会、研修会、自習室、進路資料室の整備をする。 ○進路関係の環境を整備し、学校全体が勉強をする雰囲気になるよう協力する。 ○朝課外や夏期課外を実施し、学力向上に効果的な授業を行う。	年度末の生徒・保護者へのアンケートにて A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒・保護者が満足している。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒・保護者が満足している。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒・保護者が満足している。	B	・成績下位層の学力と学習意欲の向上に課題が残るが、上位者には勉強しやすい環境を整えることができた。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2018年度(分掌)

\*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
分掌名		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
宗教部	①	聖書とイエス・キリストを知る知識を高める。	○宗教委員をQT Shareに積極的に参加させる。 ○クラス礼拝のメッセージの準備を宗教クラスで指導する。	年度末のアンケートより A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	A	○QTShare時間に学期の初めは新しい宗教委員で適用が難しい感じだったが、慣れるようになったら委員が積極的にシェアようになった。	黄 惠 敬
	②	宗教行事に積極的に参加させる。	○花の日礼拝・収穫感謝礼拝に良い物をもって神様に捧げるように指導させる。 ○担当教員の指導によって、生徒の役割が全う出来るようにさせる。 ○アンケート調査を実施して、生徒の参加率を把握する。	年度末のアンケートより A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	B	○クリスマス礼拝の様々な役割を生徒達を積極的に参加させた。 ○クリスマス礼拝の献金に多くの生徒達が参加し、学院から多くの施設に献金を送ることが出来るようになった。	
	③	聖書の教えを実行させ	○サマリアデーに多くの生徒が参加出来るようにさせる。 ○良きサマリア人のように、困っている隣人に関心を持つように教え導く。 ○クリスマス礼拝献金に多くの生徒を参加させる。	年度末のアンケートより A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。	B	○宗教委員に募金の目的をもう一度強調して、クラスでアナウンスをして、生徒達を励むようにさせることの大事さを感じさせる。 ○サマリアデー募金活動について、与える人がもっと幸いであるという聖書の教えでもう一度生徒達を励ます。	
ICT部	①	生徒に「主体性」「協働性」「創造性」を身につけさせる。	○生徒が主体的にICTを活用して学校行事をよりよいものにしていくサポートをする(連絡手段等)。 ○生徒が協働してICTを活用し、学校に付加価値を与えるものを作るためのサポートを行う。(ICT委員会の運営等)	年度末のアンケートにより A:生徒、保護者、教員の80%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B:生徒、保護者、教員の60%が満足している結果が出た場合 C:生徒、保護者、教員の50%が満足している結果が出た場合	B	○Classiの活用状況の向上と、連絡手段として定着が進んでいる。一方、生徒が主体的な活動をするための環境整備が進んでいないことが課題。	重 村 雄 太
	②	ICTを用いた授業の導入・定着と授業外でのICT活用の促進	○教員の授業へのICT導入サポート、研修の実施と次年度に向けたICT研修の考案 ○学校行事、部活動での活用イベントの企画	年度末のアンケートにより A:生徒、保護者、教員の80%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B:生徒、保護者、教員の60%が満足している結果が出た場合 C:生徒、保護者、教員の50%が満足している結果が出た場合	C	○ICTの研修は複数回実施し、情報共有ができたが、それを各教員が活用するところまで完全にたどり着けていないことが課題。 ○各クラスでそれぞれ活用は進んでいるが、それが広報活動や教員間の共有につながっていないので、それを共有する機会の創出が課題。	
	③	校内ICT環境の維持・整備	○教室内のICT機器、教職員の使用する機器の管理、メンテナンス ○生徒、保護者の質問対応と、ICTに関するトラブル対応と担当業務の確実な遂行	年度末のアンケートにより A:生徒、保護者、教員の80%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B:生徒、保護者、教員の60%が満足している結果が出た場合 C:生徒、保護者、教員の50%が満足している結果が出た場合	A	○ICT機器レンタルシステムの構築が進んだ。 ○新iPadに関する業務や、質問対応など、チームで取り組む体制ができた。	